

なま

2014 秋  
AUTUMN



奈良教育大学イメージキャラクター  
「なっきょん」

奈良教育大学 広報誌

NARAYAMA

NARA UNIVERSITY OF EDUCATION'S  
SEASONAL PUBLICATION

<題字>名誉教授 池田 桂鳳

**特集** 奈良県教育委員会と  
奈良教育大学の連携・協働による教員づくり

えがおいっぱい

# 学長対談：奈良県教育委員会教育長

## 羅針盤

伝統文化あふれる奈良から世界に羽ばたく科学者を！  
理数教育研究センターと県立高校との連携

## クローズアップ

広く使ってくれることを目指した技術教育の教材開発  
技術教育講座 谷口義昭教授

## ラボ・レター

造形芸術学  
山岸公基研究室

## なっきょん's CLUB 企画

奈教のひみつ  
第65回輝菫祭  
やるならきょう！今シカない！



子





## CONTENTS



### 2 特集

奈良県教育委員会と奈良教育大学の  
連携・協働による教員づくり  
学長対談：奈良県教育委員会教育長

### 7 羅針盤

伝統文化あふれる奈良から世界に羽ばたく科学者を！  
理数教育研究センターと県立高校との連携

### 10 クローズアップ

広く使ってくれることを目指した技術教育の教材開発  
技術教育講座 谷口義昭教授

### 13 ラボ・レター

造形芸術学 山岸公基研究室

### 14 ひと・あれ・これ

小学校で特別支援コーディネーターとして活躍する米田明弘さん

### 15 なっきょん's CLUB企画

奈教のひみつ 第65回輝薨祭  
やるならきょう！今シカない！

### 17 留学生レポート

嶺南大学校（韓国） 蓮岡くるみさんとヨ ジュヒさん

### 19 キラリ☆奈教生

ESD実践モデル全国会議2014発表学生

### 20 フカツ魂！

女子バスケットボール部

### 20 活躍する奈教生

### 21 キャンパスニュース

### 22 奈良に息づく仲間たち

### 23 奈教生に聞きました！ 自慢できること

## 表紙のはなし

## 模擬授業

今回の表紙は、模擬授業をイメージしました。本学では、多くの学生が、友人らを前に授業の練習を行う模擬授業に取り組んでいます。今回モデルにご協力いただいた伊藤 壘さん（教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻 理科教育専修 1回生 大阪府立槻の木高等学校出身）と井上 恵太さん（教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育専攻 社会科教育専修 1回生 兵庫県立兵庫高等学校出身）は、まだ1回生。授業をした経験はほとんどなくて戸惑った様子でしたが、さすが教育大生、様になっています。



特集

一万字 徹底議論

# 奈良県教育委員会と奈良教育大学の連携・協働による教員づくり

## 対談

吉田育弘

奈良県教育委員会教育長

長友恒人

奈良教育大学長



—都道府県それぞれに教育の課題があるかと思いますが、奈良県の場合はいかがでしょうか。

いかに多くの引き出しを持ち、  
おもしろい授業ができるか

**吉田** 奈良県の教育課題としては、規範意識の問題や体力が低いこと、学習意欲が低いことなどがあります。今回の全国学力・学習状況調査の結果で、小学生の学力が相対的に低下傾向にあることが分かってきました。全般的に学ぶ意欲が減退しているのので、その意欲の向上を図るということを一番の課題にしていきたいと思っています。生徒指導で子どもの規範意識を育てるという方法もありますが、学力をしっかり身に付けさせて落ち着いたクラス運

営をしていくというような方向に転換していく必要があるのではと考えています。

**長友** 教育長になられた時の新聞記事などを読みましたが、共感するところがたくさんあります。今のお話もそうで、規範意識が足りないという問題は、何故規範意識が芽生えないかということから考える必要がありますね。学校に行くのが楽しい、勉強がおもしろい、そういう学校にできれば、学校でのルール違反は激減するでしょう。

**吉田** そうですね。子どもたちにとって学校が楽しい場所にならなければならない。そのためには、やはり授業が大事ですよね。おもしろい授業を教員ができる、これが一番だと思います。

**長友** 教員であるためには、まず授業をする力があって、その上で生活指導や不登校の子どもをサポートなど、いろいろなことができるという形であるべきです。教員の本業は、教室で子どもたちに教科をおもしろいと思わせることです。

**吉田** 奈良教育大学の学生さんは、ある程度の知識をもち、ある一定レベルの授業ができる技術を身に付けて教員になっていただいていると思いますが、学長が言われたように、おもしろい授業をできるかどうかということが、一番の鍵になるのではないかと思います。

**長友** そのためには、教科について深く広く理解していることが重要です。我々も大学で授業をするときに、自分の専門分野の授業であれ



ばたくさん引き出しをもっているのです、いろいろな興味ある話をする事ができます。

## 教員は専門以外の分野も幅広く学ばなければならない

吉田 中学校や高校の教員は、一つの専門教科が中心になりますので、その教科については、関心をもって学んだり、いろいろな本を読んだりしています。しかし、小学校の教員は、全教科を教えることになるため、得手不得手が当然出てくるわけです。その中で、あらゆる教科についてどれだけ多くの引き出しをもてるのかどうかは鍵になってくると思います。大学での学びだけでそれを身に付けることは難しいでしょうから、採用後の研修でも引き続き身に付けてもらうということが大事だと思うのです。

私が大学生の頃は、一般教養が2年間あり、理学部数学科の所属でしたが、哲学や東洋史、法学、日本国憲法、そして物理学やコンピュータ概論など人文科学、自然科学、社会科学から幅広く選択して学ぶ機会がありました。今の大学生はどうなのでしょう。

長友 我々から見ると、幅広い知識や経験をもっているかという点では、今の大学生はやはり物足りないと思いますが、彼らは彼らなりに一生懸命なのかもしれません。私が30代~40代の頃に教えていた学生と今の学生を比べると、やらなければならないことがたくさんあります。学校現場の状況も変わってきていますので、座学で知識を詰め込んで教員になれる時代ではありません。スクールサポートやボランティアの経験もしなさいという指導があり、体験的に学ぶという要素が加わっています。また、外国でいろいろなことを経験するということや、家庭の経済状況の悪化により、学費を自分で稼がないといけない学生が増えたという状況もあると思います。

吉田 私は、嫌なことや自分の専門と関係なさそうなこともしっかりと学ばないといけないと

思っています。例えば国語を専門にしたいと大学に入ったとして、国語については関心や意欲をもっているのです、自ら学ぶでしょう。しかし、それだけでなく、数学や理科などの自然科学分野の一般教養もしっかり学ばせることが大事だと思います。逆も同じで、数学や物理などを専門にやろうとしている学生が、芸術や国語、哲学、法学などの一般教養を学ぶということが減っているのではないかと考えています。

長友 本学の一般教養は、ジャンル別に控られていて、それぞれのジャンルから選択します。学生自身がおもしろいと思って受講するものだけではなく、教員の目や大人の目から見て、将来のために勉強しておくべきだという科目も受講できるようになっています。

また、小学校免許取得の必修科目は、教育職員免許法が変わって、教科専門の単位をあまり多く取らなくても免許が取得できるようになりました。本学の初等教育履修分野では教職科目の教科等専門科目は、国語、社会、算数、理科が必修、その他は2教科以上選択です。他に自分が所属する専修の中等教育履修分野が展開する教科専門の基礎科目を必修として履修することになっています。ですから、ある教科については相当のレベルまで学習するが、その他の教科は「広く浅く」というカリキュラムです。

吉田 ということは、以前のように、どの分野も高度な分野まである程度やっているということではないのです。

正直に言うと、実際の教育現場では、苦手分野をもっている教員がたくさんいます。つい最近の実態ですが、校内にある百葉箱を鳥の巣箱だと子どもたちが言っていた学校がありました。理科で百葉箱が使われていないという実態がうかがえます。当然知っていて、理解していないといけない基礎・基本の知識が、不足している教員がいるというのが現実です。しかし、それを学び直す余裕がなく日々の実践に追われているのではないかと思います。小学校教員は、採用後の研修時に、弱いところを一定レベル以上にまで上げるといっていかないと、教科によっては子どもたちが興味・関心をなくしてしまうのではないかと考えています。

長友 高校レベルでも同じだと思います。この教科はおもしろくないけれど、将来役に立つから知っておけよということです。「学習」ではなく、必ずしも興味もてない「勉強」も必要ですね。

吉田 確かに、受験科目に特化したカリキュラムで、文系コースに入ると数学は勉強しなくてもよいというのは行き過ぎだと思うんです。教養として高校で身に付けるべきことをきちんと

身に付けて卒業することが、大学に入った時にも力になってきます。

長友 今、中央教育審議会で高大接続の議論がされています。高校、大学にはそれぞれの役割がありますが、高校では大学受験に特化した学習ではなく、受験に関係のない教科についてもしっかりと学んでおくことが必要です。大学に入ると、高校までの学びをベースにして、自分の専門を深化させる学習になります。特に修士や博士まで行くのであれば、一見必要ないと思われるものについても基礎的な知識を持っておくことが重要で、それが研究のベースになります。

吉田 私は高校で数学を教えていましたが、やはり問題を解くというところに主眼を置いてしまふんです。例えば微積分を教えるときにでも、その物の見方やおもしろさ、楽しさを伝えることが大切なのですが、それを道具として利用して問題を解く、解ければよいというような授業になってしまいます。高校でも、本来はさらなる学びを追求していく基礎となることを教えないといけないと考えますが、物の見方や面白さを伝えることができるような学びについて大学にも担っていただけたらと思います。

長友 大学に入学してくる最近の学生達が、昔の学生と違うところの一つは余計なことを知らないということです。しかし、良い教員の一つの条件として、子どもたちに話することができる余計なことをどれだけ知っているかということがあります。子どもたちの立場から考えると、そういう余計な話は聞いていておもしろいですよね。

吉田 教育大に入ってくる学生は、センター試験を受けてくるので、一応全ての教科科目を学習しているでしょうけれども、センター試験の問題を解けるようにという視点が主になってしまう傾向があります。その視点から離れて、その背景や物の見方、おもしろさをもう一度学習するような機会を学生に与えたりするなど、小学校や中学校文系の先生に、例えば微積分を、受験を意識しなかったらもっと楽しいんだということを知ってもらえるような機会があればいいなと思っています。問題を解くこと以上に、どのように学びの面白さを味わわせ、自分で考える力を身に付けさせていくのかを、高大接続の中で考えられると良いと思います。

それにつながる話で、実は、小学校教員に、指導するにあたってどの教科の授業に悩んでいるか調査をしたところ、国語の指導方法について一番悩んでいるという小学校教員がたくさんいることがわかりました。初任者も悩んでいますし、採用後数年経過した若手教員や採用後10年の教員も悩んでいます。自分で考え



奈良県教育委員会教育長 吉田 育弘  
 県立高校教諭、奈良県教育委員会事務局教育次長、同理事などを経て、平成26年4月に奈良県教育委員会教育長に就任。専門は数学。



る力を育成する授業にするためには、授業の単元構成や発問がどうあるべきか、国語を専門的に学んでこなかった教員には、イメージできないということがあるようです。

**長友** 最近の学生は、本を読まない者が多いですね。そのことが要因の一つなのではないでしょうか。私たちの世代は学生時代にたくさん本を読み、そこからたくさん影響を受けました。

国語を教えるときに、教材として出てくる作品を相対化させるためには、その他にどれだけの作品を読んでいるかということも、大事ですね。学生たちは、受験勉強として作品を読んできているので、受験勉強以外の自分の興味として読んでいないのでしょうか。

**吉田** 問題を解くためだけに読んでいて、感性で読んでいないんですね。作品を味わうということをしていない。大学生にもっと本を読んでもらわないといけないですね。

**長友** もう一つ学生の問題で言うと、海外留学があります。グローバル感覚を養うために海外留学を推奨しているのですが、留学を希望する学生はあまりいません。最大の理由は就職です。半年や一年間外国を見てくることは、後になってプラスになると言っても、目の前の就職ということを考えるとなかなか踏み切れない。余裕がなく、枠の中での勉強からはみ出せない学生が多いです。

—小学校英語についてはいかがですか。

## 英語教育の力をきちんと持った教員を養成。外国での経験が生きる

**吉田** 子どもたちは、文法や細かいことを意識せずに、聞いて話すことから活動に入っていますので、ある程度成果は上がると思います。しかし、中学校に入るとその力が低下する傾向があるようです。

**長友** 文法をやりだした途端におもしろくなくなりますね。

奈良県教育委員会と本学との連携協議会の専門部会において、英語教育の充実について検討が進められていますが、本学の学生には英語教育の力をつけて卒業させたいと思います。

**吉田** 小学校の教員になろうとしている学生が、短期でも外国へ行って自らコミュニケーションを図る努力をして、その経験を基に教員として授業をすれば、外国語活動の趣旨を生かした授業はすぐにできるのではないかと思います。

**長友** 私が学生たちに勧めたい海外旅行は、バック旅行ではなく、自分でプランを立てて行くということです。頼る人がいないので、行く前に多少準備をしますよね。そして実際に現地まで話してみると、文法通りに話さなくても単語と身振りでも通じるわけです。これがグローバル感覚の第一歩です。言葉が通じると通じないのでは、自分の行動の自由さが大きく異なります。もっと通じたらおもしろいのにと思うようになります。こういう体験が必要なんだと思います。

**吉田** 自分で計画を立てて外国へ行き、いろいろな経験することはとても良いことだと思います。今の学生が、単位認定しないとなかなかそういうことをしないのであれば、そのような経験で単位認定をするというような制度をつくられてはいかがでしょうか。

**長友** 単位認定はもう少し緩めても良いと思っています。外国での体験について一定の基準に従ってレポートすることによって認定するというのをやればよいと思います。

—学校現場へのICTの導入が進んでいますが、奈良県の場合はいかがでしょう。

## 県教委と奈教大がタッグを組んでICT整備や研修を行う

**吉田** ICTは、ハードの整備と共に進めていかないと、なかなか教員の力量アップにつながらないところがあり、現在はハードの整備がまだまだ追いついておらず、タブレットを使った授業を実践してもらうこともできていません。デジタル教材もまだ少ないです。電子黒板を使うなどして、旧態依然とした指導方法から変えていくことは大事です。これからの流れはそうなっていくと思います。ただ、その流れにしっかり乗れるような教員を養成する必要がありますので、県の教育研究所では、ICTの担当係が今後、教育研究所の中でしっかりと研修をできるように準備を進めています。これについては、専門部会を作って、教育大とタッグを組んで検討を進めています。

**長友** ICTは重視しています。昨年は、附属小学校も中学校も、ICT活用をテーマに公開研究会を行いました。このノウハウを、奈良県のICT整備に活用していただければと思います。

**吉田** 県内では、へき地の市町村の方がICTの環境整備をしたいという思いは強く、ICTで子どもたちの教育環境を良くしていこうという考えをもっておられます。我々は、そういう思いにも応えていかなければなりません。

**長友** 附属学校で、「ICTを活用した授業はこんな感じですよ」といったモデル授業を展開できますので、それを関心のある先生に見てもらえたらと思います。私の個人的なアイデアとしては、附属学校と公立学校のいくつかをモデル校として、実際にICTを使った授業方法でどのような効果が出るのか実証していけばどうかと考えています。お金のかかることではありますが、スタートはいくつかの公立校と本学の附属学校とでできるのではないかと思います。

**吉田** もう少し進めば、日常的に使うことができるようなデジタル教材が入ってくると思います。今はまだスポットで使うだけです。ある一部分でのみおもしろいなという程度ですね。

**長友** デジタル教材は相当充実してきています。ICTを活用した授業は今ほとんど試験段階ですが、他大学の附属学校や公立学校でもそれぞれ着眼点が異なります。奈良ではこういうことを目標にやっていると決めて、ICTを使うことの有効性を確認していくことができれば前に進むことができるのではないかと思います。

本学では、3年前の改組のときに、一方でICTを強調しつつ、一方で板書を必修の授業にしました。やはり授業の基本は板書です。アナログを基本としつつ、デジタルをいかに上手に組み合わせるかがICT活用のポイントだと思います。

本学の附属でICTの整備を進めるにあたって、私が最初に提案したのは、全教室に書画カメラを設置することでした。外で植物や虫の観察をして来たときに、それが何なのかを調べることがあると思いますが、教科書には載っていないが図鑑には載っているというときに、図鑑を書画カメラで写してみんなで共有することができます。また、今では全教室に電子黒板も設置されています。

**吉田** 電子黒板を使いこなすのは難しいですね。慣れてくると有効に使えるでしょうが、研修が必要です。教育研究所でも、一度附属学校の様子を見せてもらわないといけないですね。

**長友** 先ほどの書画カメラのような初歩的なことから始めると、抵抗感もなくなってきて、使い方も上手になってきます。また、効果があると思ったのが、体育のマット運動や鉄棒などの練習の様子をタブレットで撮影し、自分や友達の現状や成長を振り返りながら授業を進めるというものです。

**吉田** 確かに、そういう授業は素晴らしいと思います。ただ、それをするだけのマンパワーがなかなかないのが現状ですね。撮影のため



のアシスタントも必要になります。

**長友** 子ども同士での撮影も可能ではないかと思えます。また、本学では、現場でのICT活用を支援するためにICT支援員を雇用していますが、ICT支援員として活動できる学生の研修も進めています。ICTに特化したスクールサポートのようなことも可能になると思います。

今までの授業を変えるのではなく、今までのアナログの授業にいかにかデジタルを組み合わせるかということです。授業の仕方は基本的には同じです。

**吉田** 現場の教員は、年齢層が高くなるほど、今までの授業スタイルが大きく変わるということで、ICTの導入に抵抗を感じる人が多いようです。教育大の学生さんには、授業の中でICTをフルに活用できるような教員になってもらう必要がありますね。

**長友** これから本学を卒業して教員になる学生たちには、電子黒板を使える力量を十分に付けてから卒業させたいと思っています。

— 教職大学院をどう展開していくかは、本学にとって大きな課題なのですが、教職大学院がどういう学ぶ機能を持てればよいでしょうか。

### 授業の充実のために役立つ研修を

**吉田** 現場の教員は、日々行っている授業をおもしろくするような研修を望んでいるのではないかと思います。アンケートをとってみても、指導方法や教材開発へのニーズが高いです。

**長友** そうですね。私もアンケート結果を見させていただきましたが、経験年数に関わらず指導方法や教材開発のニーズは高いですね。教職大学院でスクールリーダーの養成といったときに、やはり中堅どころの教科指導のリーダー養成にも力点を置く必要があるのではないかと、思っています。

**吉田** 私も同感です。若手教員が中堅教員に日常的に相談することとしては、保護者対応

や学級経営という話もありますが、一番多いのは授業をどのように工夫しているのかとか、どう教えているのかということです。授業力の高い教員というのは、先ほどの原点に戻りますが、おもしろい授業ができる教員ということですね。

**長友** 本学には修士課程もありますが、修士については、先ほど言いました余計なことも知っているとおもしろくなる、教科の内容を深く知っていれば授業がおもしろくなるということに関係してきます。今まで修士では、それを座学中心にやってきましたが、今後は実践も入れていきます。教科は教科内容学を徹底したらどうかと思います。大学の教員の専門分野を小学校や中学校の教科の中にどう落とし込むことができるかということが大学教員の仕事だと思います。現場の教員が苦手分野をハードルを越えて教えることができるようにするには、これが必要ではないかなと思います。

**吉田** 教職大学院には、想像力を育てるという役割も担っていただきたいと思っています。想像力は非常に大事で、教員にそういう話をしています。先ほど話がありましたように、国語を教えるのが難しいという理由、原因にはその教員たちが想像力を欠いているということがあるのかもしれませんが。想像力豊かな子どもを育てるべき教員に想像力が欠如していたら、これはもったいなくです。知識をもっているだけの教員には魅力がありません。想像力がある教員が魅力のある教員です。今の教員に想像力が欠如しているという実態があるのなら、教材や指導方法というスキルよりも、特に小学校の教員に対して、想像力を高めさせるような教職大学院であって欲しいと思います。

**長友** 子どもからみれば、想像力豊かな教員はオーラがあるように見えます。言葉の端々にそれが見られます。しかし、そのような話は、中教審の答申や協力者会議、ワーキンググループなどの中では出てきませんね。

それに関連すると思うのですが、本学で実施している取組で、良いなと思っているのが、ケーススタディです。これは、教科の指導ではなく、例えば、「クラスでAくんとBさんが問

題を起こした。そうしたらAくんのお父さんが直接校長にクレームをつけました。この場合、あなたはどのようにしますか」という議論を、学校現場での経験豊富な本学教員が講師となって行っています。これはとても大事だと思っています。スクールサポートなどで学校現場に入った経験のある学生は、そういう場面に出会うかもしれませんが、そうでない学生は、それこそこういう場面を想像できません。

**吉田** 学生が、それらのケースを想像し、意見を出し合いながらさまざまな対応方法を検討し、一番良い解決策を探ることができれば、良いでしょうね。

**長友** 議論の中で出てきた対応方法については、そういう対応をするとこのような問題が起きるというような指導を行い、正解の一つにはしていないようです。この方法は、議論を進める中で想像力を養うことができるとしています。

ケースメソッドの授業を聞いていて感じるのは、学校という組織で教員として働くには、管理職とのやりとりを気にしないといけないし、子どもの後ろにいる保護者のことも頭頭に置きながら子どもと接する必要があり、子どもが好きというだけでは教員にはなれない。

**吉田** 子どもが好きというだけではだめですね。私は「子どもの不可能を可能にしてあげるのが教員だ」と、「できないことをできるようにしていくのが教員だ」と常々言っています。教員はそこを絶えず意識している必要があります。「子どもをどうしたいのか」ということをしっかり考えながら行動できる教員でないといけないと思うんです。

**長友** 教育長が言われた言葉で、とても共感したのがあります。それは、「教える者は、教えることの専門家であると同時に、学ぶことの専門家でもあらねばならない。」ということです。それは、本学で取り組んでいる「地域と連携した『学ぶ喜びを知り、自ら学び続ける』教員の養成に向けた持続可能な発展のための教育活性化プロジェクト（学ぶ喜びプロジェクト）」につながってきます。

**吉田** それに関連する事例ですが、冬季オリンピックで御所の子どもがメダルを取りましたが、この話をホームルームでどう展開させるべきでしょうか。これもケーススタディなんですけど、喜びを共有しようと拍手させる教員もいれば、何もしない教員もいるかもしれません。しかし、ホームルームであの喜びを共有しないで、何も話さずに別の話をしているという担任であるよりも喜びを共有する担任の方がより良いと思います。

## COLUMN

奈良県教育委員会と本学は、連携協力の円滑な実施を図ることを目的に、平成15年度から「連携協力に関する協議会」を毎年開催しています。この協議会では、連携の現状やそれぞれの取り組みに関する報告、教員養成・教員採用についての情報交換などが行われます。またその下に連絡部会を設置し、日常的な連携協力の促進のために連絡調整が行われていま

す。さらに個別の事案については、専門部会が設置されています。現在「英語教育の充実」について「教員のICT活用指導力」についての専門部会において、より具体的な話が進められています。これらの場を活用し、さらに有益な連携となるように検討を進めています。



**長友** 学級経営もマニュアル本でいったらいけないということです。子どもの心にどう響くかなんですね。

**吉田** そうです。どう響かせるかなんです。学ぶことの専門家、学び続けると言っているのは、オリンピックのような世間の関心事についても、学び続ける必要があるというのが私の思いです。

**長友** 型にはまった行動をするのではなくて、いくつになっても教員として感性をもっていないといけないですね。

**吉田** 教科の学びはもちろんのこと、世間の関心事に対して、無関心でいるような教員ではなく、多くの日本人が関心をもっていることに対して関心をもって、それを子どもに伝えるか伝えないかということも含めてしっかり判断ができる教員になってもらいたいと思います。

**長友** 教職大学院では、毎年夏に十津川村で村内の小学生を対象にサマースクールを実施しています。また、理数教育研究センターが曽爾村でサマースクールと冬の勉強会をやっています。曽爾村のサマースクールは、どの専修の学生も参加できるのですけれども、学生に企画をさせて、8月の終わりくらいに3泊4日で行きます。私も2回ほど見学に行きましたが、学生達が大学にいたときと顔つきが違います。明るいし、楽しそうにやっています。ああいう体験が、重要なんだと感じました。やはり座学だけでやっているのとは全然違います。こういうことが、学び続ける教員として、例えば、30代、40代になったときに、そのときの経験を思い出してもらったらいいなと思いますね。大事なのは、教職大学院の十津川村も理数センターの曽爾村も、学生達に企画させるということです。それが大事だと思います。

**吉田** 大事ですね。学生に企画させるのはね。

**長友** 企画して、教員から「これは、中学校の1年生だったら、まだ教科書に出ていないのでは？」というところから指導が入るんです。そうすると、そういうことを組み立て直し、模擬的に自分達でもやってみるんです。これがとても力がつきます。これが学び続ける第一歩ではないのかなと思います。

**吉田** 教育大全体で学び続ける教員を養成するということですね。

**長友** 「学ぶ喜びを知り、自ら学び続ける教員」ですね。つまりこれは、大学を出ても、いつまでも感性を持って学ぶという姿勢を続ける、学ばないといけないから学ぶのではなくて、

学び方を学生時代に身に付けてそれを続けていく素質みたいなものを身に付けてもらいたいと思っています。

**吉田** 教育大の学生は、教員として採用されて、奈良県の教える専門家として、リーダー的な役割を果たしていただかないと困りますね。また、県教育委員会としては、教育大で学ぶ姿勢を身に付けた学生が採用されてからも学び続けることができるように、教員を支えていきたいと思います。教職大学院での研修が一つの選択肢となるわけですが、「教職大学院は自分が学び続けたい学びに対して応えてくれる場、力を付けてくれるような場である」ということを強調した方が、教員はより行きたくなると思います。小学校の現職教員が教職大学院へ行き、2年目は学校と研究所で研修する。「学び続けたい学び」が、何になるかというのは、小学校の教員では、場合によっては国語の指導方法ということになるかもしれませんが、教職大学院は関心をもっていること以外でも学べたり想像力を育てたりするところであって欲しいと思います。想像力を育てるといことは、大学院だけでなく、県の教育研究所の中でもやらないといけないのかもしれないですね。

**長友** そのような役割を果たせるように頑張ります。何を頑張れば良いのか、こういう機会を設けて情報をいただき、効率の良い頑張りをさせていただければと思います。

**吉田** そうですね。

### 連携はより具体的な段階に

**長友** これまでは、現場の学校ではこういう力をつけて欲しいだろうなという推測を基に教育をしていました。しかしこの数年で、県教委と本学との協議が実質化してきましたので、これからはニーズを具体的に把握して、それに大学がどう答えられるのか、そのところがこれから実質的にできていくようになるのではないかと、そういう段階に来ていると思います。

**吉田** そうですね、その段階に来ていますね。教育研究所では、研修の中身自体を副所長の方で、ある程度整理をしながら、何を中心に研修するのかを検討しています。その中で、また連携させていただきたいですね。今だとICTの分野や外国語活動の分野でどう進めて行くのかについて、ありがたいことにお互いに部会をもって話し合いがされていますよね。

**長友** 富岡前教育長と初めてここで目にかかった時に、「今まで本学の教員が一本釣りで委員や講師になっていますが、教育委員会と



奈良教育大学長 長友 穂人

奈良教育大学教授、奈良教育大学副学長(研究担当)などを経て、平成21年10月に奈良教育大学長に就任。専門は文化財科学、物理学。

大学として組織対組織で連携したい」という話をしたのを覚えています。教育委員会としてこのような研修を計画しているので、こういうようなことができる、講師になれる教員はいないかという連絡をいただき、それならこの人が適任だと応じられるというやりとりをイメージしていました。それが今形になってきたなと感じますね。そういう方向で、現職の研修、教師教育について、今までは大学がどれだけお手伝いできるかという発想でしたが、一緒に現職研修を考えようということまで来ていますね。

逆に、大学の教育内容についても、いろいろと注文をつけてください。全部はすぐには答えられないかもしれませんが、大いに参考にさせてもらって変えていきます。そして、それを地域の子どもたちに還元できればと思います。

**吉田** そうですね。やはり子どもたちに奈良県の小学校へ行って楽しかったと感じてもらい、どんどん学ぶ意欲が引き出されれば良いなと思います。

**長友** 最初のところに戻りますよね。子どもたちが、「今日学校で何があるんだろう。」と学校を楽しみにして行くと授業がおもしろいと。大人になって自分に子どもができるような年になったときに、「子ども時代は楽しかったね。」となるような、そういう学校であると良いですよ。

—お忙しいところ貴重な時間をいただきありがとうございました。





# 伝統文化あふれる奈良

奈良県の特徴校である奈良県立山辺高等学校、青翔中学校・高等学校と理数教育研究センターが連携協定を締結。地域や中学校とも手を携えた高大接続事業が本格的にスタートしました。

## 理数教育研究センターと 県立中学校・高校との連携について

理数教育研究センターは、平成26年4月2日に奈良県立山辺高等学校と、5月1日に奈良県立青翔中学校・高等学校と相次いで連携協定を結びました。既にこれまでに行ってきた連携を、一層、充実・発展させることが大きな目的です。山辺高校は、進学だけではなく生活文化、生物科学に特色を持つ高校で、地域の小学校や中学校で高校生が理科実験講座を開くなど積極的な活動を行っています。一方の青翔高校は、全国初の理数科のみの高校として発足しSSH(スーパーサイエンスハイスクール)の指定を受け積極的に理数教育に取り組んでいます。平成26年度からは、県立の青翔中学校が併設され、今後の発展が期待されています。

理数教育研究センターは、平成17年度から文部科学省の支援を受けて開始された一連の理数プロジェクトの拠点として設置されました。20数年来、警鐘が鳴らし続けられている理数離れを抜本的に打破するためには、優れた理数系教員の養成こそが最重要課題であるとの見地から、約10年にわたって理数プロジェクトを推進してきました。今回、奈良県教育委員会の強力なバックアップの



下、これらの理数特色校、センターが連携協定を結ぶことで、今後、組織的に事業を推進する環境が整いました。

### 今後の展望

高校生、中学生への学習支援、現職教員への支援、本学学生の実践的活動など、今現在、いくつもの連携活動が同時進行しています。学校教育現場との連携でありがちなのは、単発的で一過的な出前授業などに終わってしまうことです。本学の理数プロジェクトでは、発足当時から、継続的な連携の積み上げ(高大融合)を重視してきました。今後、絶えずフィードバックを重ねて、事業内容をより良いものに発展させるべく努力して行きたいと考えています。山辺高校とは、幼・小・中・高・大を買

### センター長からのメッセージ

理数教育研究センター長  
教授 まつやま とよき 松山 豊樹



奈良は、言うまでもなく日本の伝統文化のふるさとであり、その一部は、世界遺産としても世界に向けて存在感を示しています。もちろん、それらは最初から遺産になるために生まれたわけではないでしょう。日本の創成期、激動期に大きな役割を有形・無形で果たして来たのです。一方で、今、我々は、大きな変革期にいてと言って良いでしょう。理数離れ、少子高齢化、限界都市、地域力の消滅など、課題は山積しています。大した資源も持たない中、我々の宝は人材です。人材を育てる、人材を育てる人材を育てる。理数教育研究センターは、これまでも、あまり前例のない斬新な連携協力関係をいくつかの教育・研究機関と築いてきました。伝統と文化に囲まれたこの奈良の地に、地域と共に力強い教育力の発信拠点を築く。人材育成・教育は、10年先、50年先、100年先に花開きます。伝統と文化の中で悠久の時間が流れる奈良でこそできることかもしれません。

く地域ぐるみの連携を構想しています。少子高齢化が急速に進む中、地域と学校の関係は今後ますます重要になるでしょう。そのモデル事業になることを願っています。青翔中学校・高校とは、公教育の場での中・高一貫の可能性が重要となって来るでしょう。我が国の学制のありかた自体が、今大きな岐路に立たされています。その中で、一つのパイロット・プランの提示が、一つの大きな目標になり得るでしょう。もちろん、連携事業は、まだ始まったばかりです。着実に、歩みを進めて行きたいと思えます。





# から世界に羽ばたく科学者を！

## 奈良県立山辺高等学校

### 学校紹介

本校は、奈良市の東部に位置する大和高原の中心にあります。標高500mの立地条件のため、1年を通して奈良盆地より気温が3～5度低く、夏は涼しく過ごしやすい気候ですが、冬は寒さが厳しく、年に数回の積雪があります。周囲を山に囲まれ、緑豊かな自然の中にある学校です。

本校は、「夢と創意に満ち、個性きらめく学校づくり」に努め、教職員の英知を結集して、確かな学力、豊かな人間性、たくましい心身や社会感覚をバランスよく備え、将来、社会に貢献できる「生きる力」をもった人材の育成を目指しております。生徒の行動指針として、「しっかり勉強 きっちり行動 はっきり発表」を示しています。

平成25年度入学生より学科改編を行いました。大学・短大・専門学校への進学を目標にした普通科「学びの開拓コース」、そして、家庭科、情報・商業系の科目を学習できる普通科「生活文化コース」、加えて、作物・草花・造園について学習する植物類型と愛玩動物の飼育について学習する動物類型がある「生物科学科」です。これまでの、17年間にわたる総合学科の取り組みを資源として更に新たなステージに歩みを進めています。

### 協定の概要

奈良教育大学が実施している「理数プロジェクト高大連携事業」を推進するため協定を締結しました。主として理数教育に関わる「教員養成のための大学生への教育実践指導」や「高校生への学力支援」の他に、特に今回の事業では、山辺高校を拠点とした旧都祁村（現在は奈良市に編入）内の幼稚園、小学校、中学校との連携への支援を謳っています。つまり視点を変えれば、幼・小・中・高と見通しを持った理数教育の構築を目指したものとなっています。



調印式

### 実施事業

山辺高校を会場とした講習会「キノコを通して菌類をもっと知ろう」(H26.7.12)を実施しました。奈良教育大学より菊地淳一先生および大学院生をお招きし、キノコの特徴や生物としての位置づけなどの内容で講義を受け、本校の敷地内に生えるキノコの採取や同定、本校の無菌実験室を利用した菌床瓶へのシメジの種菌の植え付けやクヌギのホダ木にシイタケの種菌を打ち込む実習を行いました。本校生の他、地域の小学生も参加し、普段我々

にとってなじみの薄い菌類について実際にその生態や利用について知識を深めました。(なお、今回の講習会の中で、奈良教育大生が卒論テーマにしていたキノコが見つかり、後日、研究調査に来られました。)

このように山辺高校を会場とした講習会では大和高原の自然を生かして生物的な内容(キノコ・昆虫・野生動物)で実施していただいております。また、小・中学校への出前授業の実施に際しては内容についてのご指導や、物理化学の実験器具の借用をお願いしております。



「キノコを通して菌類をもっと知ろう」にて

### 山辺高校担当教員の声

#### 中井 政治先生

私自身、高校と大学の架け橋の一端を担わせていただくことを大変光栄に思っております。大学が持っておられる知的財産を、山辺高校や地域の幼小中学校が活用させていただき、よい意味での大きな刺激となっております。奈良教育大学が既にお持ちの研究フィールドに是非、山辺高校や地域の幼小中学校を加えていただけたらと願っております。まだまだこの地域にも多くの教育研究課題があるように思えます。私は現在奈良教育大学で、夜間の院生として国語教育研究室で「あらゆる教科の学習の基となる言語能力の効果的な育成方法」というテーマで勉強させていただいております。多くの教育大の学生が、私どもの学校現場に飛び込んで来てくれることを期待しております。



### Student's Voice



大学院 修士課程  
教科教育専攻 1回生  
むらた さや  
村田 沙耶さん

山辺高校の生徒だけでなく、地域の小学生や保護者の方、ほかの高校の生徒が参加するにぎやかで楽しい授業でした。山辺高校の広大な敷地と整った設備を活用し、無菌培養や昆虫の標本作りを行い、子ども達にとって初めての体験が多かったのではないかと思います。作業に緊張したり、夢中になったりする子どもの姿を見て「本物」を教える必要性和醍醐味を知ることができました。少しの興味ときっかけさえあれば身の回りを丁寧に観察するだけで、不思議を感じたり、発見したりすることができることを学びました。



## 奈良県立青翔中学校・高等学校

### 学校紹介

本校は、奈良県御所市にある全校生徒数約400人の小規模な学校です。平成16年に全国初の理数科の単科高校としてスタートし、今年度で創立10周年を迎えますが、その歴史は古く、御所女子技芸学校、御所高等女学校、御所高等学校を前身としています。開校当初より本校は、特色のある教育課程を実施し、体験を通じた理科や数学の学習を重視しています。その中の代表的な取組が、「総合的な学習の時間」の代わりとして行っている「探究科学」という科目の開設です。この科目は、生徒がグループに分かれて、自分達の興味・関心のある事柄について研究活動を行うというもので、その成果は毎年2月に開催する「探究科学研究発表会」にて発表します。

平成23年度には、文部科学省から「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」の指定を受けたのをきっかけに、新たに「スーパーサイエンスコース(SSコース)」(定員40名)を開設し、より充実した体験重視型理数科教育プログラムを進めています。このSSコースには、従来の「探究科学」の内容をパワーアップさせた「スーパー探究科学」、紀伊半島の自然を題材とした「スーパーフィールドワーク」など、5つの科目を新設しました。さらに今年度、青翔中学校が併設され、6年間を通じた理数科及び英語の教育プログラムがスタートしました。

### 協定の概要

本校は、去る5月1日に理数教育研究センターとの連携に関する調印式を行わせていただきました。その概要を分類すると以下の3つになります。まず、1つ目はSSHに関わる連携です。先ほど述べました「スーパー探究科学」についての生徒の研究活動に対する大学の先生方や大学院生の方による専門的な立場からの指導・



調印式

### 青翔高校担当教員の声

#### 山田 隆文 先生

奈良教育大学の先生方は、ご多忙にも関わらず、本校からの多種多様な要望にも親身になってご対応くださいます。SSH運営指導委員をお願いしている長友学長や数学の花木先生はもちろんのこと、「スーパー探究科学」等の授業でお世話になっております先生方には大変感謝しております。お陰様で多くのグループが各種学会のジュニアセッションで発表できるようになり、松山先生、常田先生、片岡先生にご指導を受けたグループが日本物理学会ジュニアセッションで奨励賞を受賞いたしました。奈良市と御所市とは物理的な距離はありますが、それに負けないように連携をより強固なものにしていきたいと思っております。



助言、「スーパーフィールドワーク」等での大学の先生方による講義・実習をお願いしております。2つ目は、併設中学校に関わる連携です。中学校では7時間目に、本校独自の取組である「青翔タイム」という発展的な学習の時間が設けられています。この取組の中で、統計に関する学習を行うにあたってのカリキュラム作り等に関する指導・助言をお願いしております。また、来年度には中学生の研究室体験も始めたいと考えております。3つ目は、教員間の交流です。大学の先生方からは専門的な内容についての話題提供、高校の教員からは教育現場における情報提供や学生さんの教育実践・調査研究の場の提供をしていこうと考えております。

### 実施事業

今年度の連携事業の中で、本校のSSコースの1年生対象の科目である「スーパーフィールドワーク」について紹介したいと思います。この科目は臨海実習・林間実習・地学実習の3つの野外実習からなり、夏期休業中に集中して授業を行っています。この内、林間実習と地学実習で奈良教育大学の先生方にお世話になっていま



す。林間実習では、生「スーパーフィールドワーク(地学)」にて物の菊地淳一先生に講師をお願いし、大台ヶ原の植生や野生動物についてのご指導を受けています。(今年度は、道路通行止めのため、和佐又山に行き先を変更しました。)地学実習では、地学の和田稔隆先生に講師をお願いし、1泊2日の日程で、三重県松阪市飯高町の中央構造線露頭や吉野郡川上村の枕状溶岩、天川村洞川の変成岩や鍾乳洞等を見学し、最後に吉野川で川原の石の観察をしています。いずれの先生方も、生徒の質問を丁寧に受けてくださり、生徒達も自然に対する興味が大いに深まったようでした。

### Student's Voice

今回私は、公益財団法人統計情報研究開発センターが行っている統計グラフ全国コンクールに作品を出品するまでの指導を行いました。生徒たちが自ら問題を見つけ、自ら解決するための計画をし、自らデータ収集をし、そのデータを分析し、結論を出すといった、生徒たちが主体的に活動できるよう計画し実践を行いました。そうすると、一人ひとり個性的な意見や考えを出し合ってくれました。その中で、私は自分が予想しているよりも、生徒は多様な考えを持ち、柔軟な発想で課題を見つけてくることを知り、生徒が見つけた課題が適切な難度なのか、実現可能なものなのかということ判断することの難しさを学ぶことが出来ました。



大学院 修士課程  
教科教育専攻 2回生  
た な かり ょう  
田中 遠さん



# クローズアップ

本学教員の研究を  
詳しく紹介

## 広く使ってくれることを 目指した技術教育の 教材開発

### 製品開発のはなし

私は、奈良教育大学に赴任して23年が経過しました。前職は鳥取県庁の職員（研究職）で、中小企業の研究開発の支援を業務としていました。大学に異動する直前に私が行った仕事は、生涯教育を目的とするグラウンドゴルフ用具の開発でした。ある日、大手スポーツメーカーと県内の中小企業が揃って私の研究室を訪問し、グラウンドゴルフというまだこの世に存在しない製品の開発をしてもらいたいとの相談を受けました。ルールは既に確立しているが、ゴルフクラブができていないとのことでした。幼稚園児から老人まで幅広く競技するために、軽くて強いという条件から、木製であることが限定されました。木材にプラスチックを注入する特殊な加工を行い、クラブを試作しました。何度も製品性能チェックを行い、ようやく完全な製品となりました。教育機関に異動するというこ

を提供していただきました。これらの用具を用いて生活科の授業で実践してもらった様子を図1に示します。私が開発した後に身体障害者用の用具も開発され、現在各地で大会が開かれていると聞いています（図2）。

奈良県教育委員会が取り組んでいる「地域と共にある学校づくり」において、グラウンドゴルフを用いた活動が実践されています。平成24年度の推進モデル校として県内で2校が選ばれ、老人会と小学生の交流が図られたようです。

グラウンドゴルフがゲートボールと肩を並べるほどまでに人気が出てきたと聞き、最初の開発に関与できたことを大変うれしく思っています。

### 教材の開発

#### 1 谷口の開発

子どもたちが学習する過程で興味や関心、また理解の手助けとなることを前提に、技術教育の教材の開

発を行ってきました。はじめに私が出したオリジナル教材の一部を紹介いたします。

#### (1) 木材の性質を理解する教材

技術の授業で木材加工は中学校1年の1学期で学習する学校が多い。木材の密度については教科書に記載されていますが、理科ではまだ学習していない内容です。密度を学習するために、まず木材を水に浮かせ、沈みの程度で理解させることを試みました。学習を深めるために、木材の長さ方向を10等分し、水と木材が接する部分が密度の値であることを示しました。さらに、木材が水分を吸収・放出することにより寸法変化すること、材料によって熱の伝わり方や接触感が異なることを理解する教具も提案しました（図3）。現在これらの教材群が教科書出版社の副読本にも採用されています。

#### (2) 木の絵本

生活科履修分野を専攻した学生から卒論で絵本が作りたい、普通の紙の絵本ではなく、木で作りたいと申し出がありました。木を薄くスラ



(図1)奈良市立佐保川小学校2年生の実践

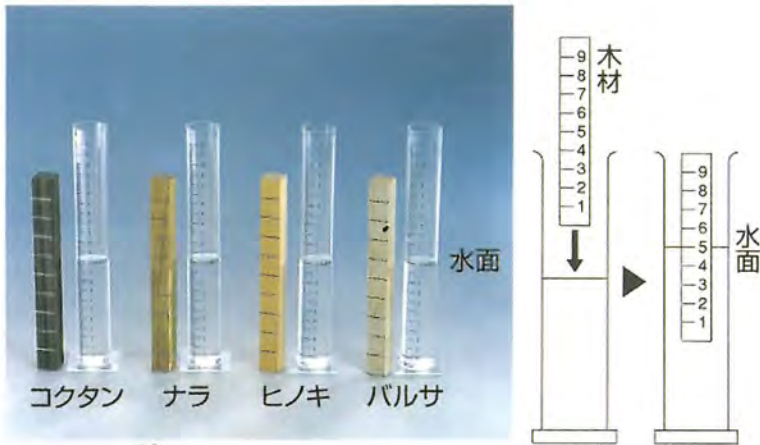


(図2)車椅子用モデルのクラブ((株)アシックス提供)



# 実験

■いろいろな木材(コクタン, ナラ, ヒノキ, バルサ)の重さを比べてみよう!



(図3)木材の性質を理解する教材・教具

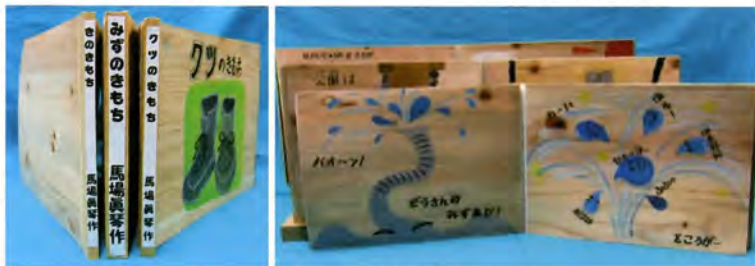


(1)木材に絵を描く



(2)大きさをそろえる

(3)背表紙を作る



(4)木の絵本の完成

(図4)木の絵本の製作

イスした板に絵と文字を描いて製本し、絵本を作成しました。製作の過程を図4に示します。木製絵本は開くたびに木の香りがします。

## 2 谷口が開発した以外で人気のある教材

私のオリジナルではありませんが、大学の授業や出前授業のものづくりで提案した中で、人気のある教材を以下に紹介します。

### (1) ブロックパズル (ソーマキューブ)

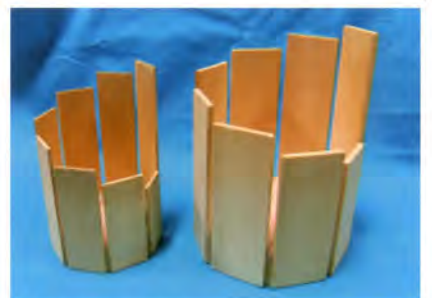
東京の科学技術館を訪問したときパズルのコーナーで販売されているのに目がとまりました。製作方法を改良して、サイコロ状のブロックを所定の形に接着してパーツを作り、それを立方体に組み上げる方式にしました(図5)。本教材は、中学校技術で製図を行う題材として利用していたもので、授業実践を行った結果、関心・意欲や知識・理解を高めることが立証されています。その後、本教材はおもちゃ作りの一題材として実践するようになりました。

### (2) リュールシロフォン

元々ヨーロッパで心理療法に用いられていた教材であり、初めて音を聴いたときに心が和み、強く印象に残りました。試作を行い、小学生でも簡単にできるように改良し、当



(図5)ブロックパズル



(図6)リュールシロフォン



時小中連携のものづくり教材を検討していましたので、学会や講演会で報告しました(図6)。それ以降、本教材が日本各地のイベント会場などでものづくり体験に採用されるようになりました。

### (3) クロスパズル

ドイツ人の講演を聴講した折に提示されたパズルです。科学知識を導入して解決するものであり、その方法に意外性があり、学生や一般の人に人気のある教材です(図7)。



(図7)クロスパズル

## 最近興味を持っていること

科学技術の発展で、私たちの生活が大きく変化しました。先日新エネルギー・産業技術総合開発機構が、ロボット技術で生活や社会、経済を発展させるために、「NEDO ロボット白書2014」を世界で初めて公表しました。白書ではロボット教育の必要性およびこれからのあり方が述べられ、学校教育におけるロ

ボット教育の意義を現在検討しています。

中国では最近学校教育に「技術」の科目が導入され技術教育が実施され始めました。使用されている教科書を図8に示します。ロボット教育も「簡易ロボット制作」(左上)として位置付けています。一方日本

では、技術教育は中学校でしか実施されておらず、授業時間数も著しく少ない状態です。

進歩の激しい科学技術に対応できる未来人を育成するために、技術教育の充実を図る研究をこれからも続けていきます。



(図8)中国の技術教科書(8領域、9分冊)各分冊を集合することで1つのデザインとなる。

プロフィール

技術教育講座

教授 谷口 義昭

九州大学大学院を修了し、鳥取県庁に採用される。平成3年に本学に異動し、現在に至る。奈良県庁、鳥取県庁、兵庫県庁から中小企業技術アドバイザーを依頼される(平成25年度まで)。日本木材学会、日本産業技術教育学会の各編集委員、日本工業技術教育学会理事、奈良教育大学附属中学校長などを務める。著書：国際競争力を高めるアメリカの教育—戦略技術教育からの改革—、技術科教育総論、中学生のための技術コンテスト、その他。





# ラボ・レター

— 学生による研究室紹介 —

学校教育教員養成課程 伝統文化教育専攻  
文化遺産教育専修  
(改組前：総合教育課程  
文化財・書道芸術コース 文化財造形専修)

造形芸術学

やまぎし こうき  
山岸 公基研究室



教育学部 総合教育課程  
文化財・書道芸術コース 4回生  
すぎうら こうすけ  
杉浦 幸佑さん  
私立近畿大学附属高等学校出身



## 山岸研究室紹介

私が所属している研究室は造形芸術学研究室、通称山岸研です。研究室の先生は山岸公基先生といい、仏像の研究を主に行っておられる先生で三度の飯より仏像が好きなお方です。そんな山岸研ですが、特徴として3つのことを挙げる事が出来ます。

## 膨大な数の本

まず1つ目は膨大な数の本があります。研究室に入るとまぶ目に飛び込んでくるのはたくさんのお本です。先生が仏像の研究をなさっているので、仏像関連の本ばかりかと言えばそうではありません。仏像関連の書籍もありますが、他の絵画や彫刻といった書籍もあるほか、海外の文化財の資料も豊富にあります。そのため、山岸研の研究生の卒業論文、修士論文は必ずしも仏像に関わっているわけではなく、その内容は多岐にわたっています。また論文も豊富に揃っており、文化財の研究を行うにはまさにうってつけの環境であると言えます。

## 所属学生の多彩な出身地

つぎの2つ目は研究生の出身地が全く異なることです。文化財系の専修では全国各地から奈良教育大学に勉強しに来ている方たちが多くいますが、山岸研は特にその特徴が色濃く出ていると思います。具体的には奈良県はもちろん、大阪府、岐阜県、長野県、富山県、そして中国と研究生の出身地が全員異なります。そのため、それぞれが自分の地域の文化財について知っているため、書籍に含まれていないような内容や知識を得ることが出来ます。特に現在は、中国人の方が在籍しているため、中国の文化財だけでなく語学や文化などを教えてもらうことができ、異文化交流を行うことができます。出身地が異なることはその人の持つ価値観も異なっているので、自分の持つ考えだけでなく他人の考えも受け入れる姿勢を養うことにもつながっています。

## 所属学生を魅了する山岸先生

最後の3つ目は山岸研の先生である山岸公基先生です。冒頭でも述べましたが山岸先生は仏像の研究をなさっています。先生の日常は授業に出られるとき以外は常にコンピューターや書籍と向き合い研究に没頭していらっしゃいます。一見すると研究しか興味がない教授のように感じるかもしれませんが、全く違います。研究生の卒業論文や進路については本当に親身になって相談に乗ってください、常に的確なアドバイスをしてくださいます。そんな訳で研究生から絶大な信頼を得ているのがこの山岸先生なのです。先生が研究生から好かれる理由としてはもう一つあり、先生自身が研究室の飲み会の際に料理をふるまってくださることです。パスタやポトフ、ローストチキンなど多彩なレシピを持つ先生が作る料理はまさに絶品の一言に尽きます。つまり、山岸先生は研究生の心だけではなく、胃袋も魅了しているのです。

## 卒業論文のテーマ

- **加藤 永梨さん** 『「羅索」の本質と歴史』  
不空羅索観音菩薩、不動明王の持物として知られる羅索。衆生をもれなく救済するとされる羅索が、インドにおいてどのような存在として誕生し、どのような歴史を経て日本に伝わったのかを探る。
- **島川 織恵さん** 『絵馬の研究』  
絵馬の起源、変遷から画題と形状までを体系的に研究し、絵馬の芸術的価値を探索する。美術史、考古学、民俗学などの分野も参考として総合的に研究する。

## Student's Voice

### 『中国における月兔図様の変遷とその伝播』

月中に兎が住むと言う中国の民俗伝承を元に、絵画や古墳壁画に描かれた月兔が時代と共にどのように変化していくかを取り上げました。また、月兔の変化する背景を探るため、民俗学の分野からも研究を進めています。



教育学部 総合教育課程  
文化財・書道芸術コース  
4回生  
よこい  
横井 まどかさん  
私立上田西高等学校出身



## 「多種多様な体験が現場で生きる」

現在、私は大和高田市立菅原小学校に勤務しています。3年目の今は、特別支援学級を担当しており、分掌は、特別支援コーディネーターです。コーディネーターの大きな仕事は、障がいのあるなしに拘わらず、子どもたち一人ひとりの細やかなニーズに応えられるように、校内の支援体制を関係の先生方と一緒に構築していくことです。そういった仕事を抱えつつ、忙しい日々を送りながら、子どもたちと笑顔で過ごしています。

大学を卒業した後、榎原市の畝傍南小学校で講師を1年間勤めたのちに、新規採用で本校に着任しました。実は私は大学時代、いわゆるスクールサポートやディアーティーチャープログラムへ参加しませんでした。ですので、教育実習以外ではこの講師の経験が、とても貴重なものでした。この1年で現場の厳しさや難しさ、楽しさを感じました。そんな私が大学時代にどんな活動していたのかというと、「ボランティア活動」です。

私は、教育学部学校教育教員養成課程の社会科教育専修に入学しました。社会科教育を専門とされる、現在は別の大学で教鞭を執る田淵先生をはじめ、たくさんの先生方にご指導いただき、学び多い学生生活を送ることができました。また3回生のときに「ペットボトルキャップリサイクル活動」との出会いから、ボランティア活動を始めました。

ボランティアセンター（現在のボランティア・サポート・オフィス）のスタッフとなり、「あいふた from なら」と「なっきょん's cafe」の2つの活動をしました。前者は、先述の「ペットボトルキャップリサイクル活動」の愛称です。キャップをリサイクルし、ワクチンにかえて発展途上国の人々に届けるという活動です。ワクチン1000人分達成カウントダウンのイベントを企画し、子どもたちが楽しめるゲームも行いました。後者は日本人学生と留学生との交流会です。交流会では楽しくおしゃべりをしたり、ときには異文化理解学習をしたりします。どちらの活動も、企画・運営を通して、さまざまな人との出会いがあり、いろいろなお話を聞く中で、幅広く物事を考える力を身につけることができました。

現場に入ってから、幅広く物事を考えていく力は必要です。授業をよりわかりやすくするためにはどうしたらいいかを考えたり、子どもたちの様子をより深く観察したりするためには、大事になります。教育現場の様子を知る経験もとても大事です。また私のように一見、現場にすぐ結びつかないような経験もとても大事です。大学時代に多種多様な経験を積んで、卒業後、即戦力で活躍できる奈教生になってください。

大和高田市立菅原小学校  
特別支援学級担任

こめた あきひろ  
米田 明弘さん

(教育学部 学校教育教員養成課程  
言語・社会コース 社会科教育専修  
2011(平成23)年3月卒業)



ワクチン1000人分達成  
カウントダウンイベントにて



ワクチン1000人分達成  
カウントダウンイベントでの表彰式にて



なっきょん's cafeにて



市特別支援宿泊学習にて

ひと・あれ・これ

— 活躍する卒業生を紹介 —



# 奈教のひみつ

学生広報スタッフ  
“なつきょん’s CLUB”  
企画

## 輝薨祭とは

1950（昭和25）年に、奈良学芸大学（現：奈良教育大学）学生自治会によって第1回目が開催され、今回で65回目を迎える歴史ある大学祭です。

国際三輪車レースや子どもフェスティバルなど、教育大学らしく子どもたちも楽しむことができる企画がたくさん行われます。

## 名前の由来

大学祭に名称をつけるにあたり、学歌のなかに「輝く薨…」という歌詞があるので、「輝薨祭（きぼうさい）」にしてはどうかという提案がありました。これは、学歌からの命名であり、奈良らしい名称であり、また「輝薨」の読みせ方である「きぼう」が「希望」に通じることから、本学大学祭の名称に決定しました。（昭和50年、第26代委員会）

## 委員長挨拶

私たち第65代大学祭実行委員会は、多くの先輩方が積み上げられた、奈良教育大学の大学祭、「輝薨祭」の歴史を引き継ぎ、新たな歴史を作っていくことを目標に組織されました。模擬店やイベント、展示発表など、多くの方々の協力の下、さまざまな企画を準備してきました。

今年度のテーマ『やるならきょう！今シかない！』にもあるように、子どもから大人まで全ての来場者の方々が一体となって、今しかない大学祭を楽しめるよう、委員会一同努力したいと思います。



第65代大学祭実行委員会委員長  
教育学部 学校教育教員養成課程  
教科教育専攻 国語教育専修 3回生  
佐藤 俊太さん  
私立京都産業大学附属高等学校出身

## 子どもフェスティバル

教育学部 学校教育教員養成課程  
教科教育専攻 音楽教育専修 2回生

福田 寛子さん 私立京都共栄学園高等学校出身

### 概要

輝薨祭に欠かせないイベント、子どもフェスティバル。今年のテーマは「魔法の世界」です！「魔法の世界」に彩られた舞台上、多くの子どもたちが楽しく遊び、良い思い出を作ることができるゲームや劇を企画します！



年少児から小学校高学年のお子様まで、幅広く楽しめるイベントとなっています。ぜひお越しください！







# 第65回 輝薨祭 10月31日(金)~11月2日(日)

## テーマ やるならきょう!今シカない!

### リサイクル

教育学部 学校教育教員養成課程  
教育発達専攻 幼年教育専修 2回生  
いしまる まほ  
石丸 真穂さん 兵庫県立明石北高等学校出身

#### 概要

フィルムをはがすことで洗わずに回収することができるリサイクルトレイとタケなどの非木材を使用した紙コップの使用を各模擬店に推進しています。これらを回収し、ゴミの削減と環境保全意識を高めることを目的としています。

多くの方が環境について考える機会になってほしいです。簡単にできるリサイクルなので、ぜひご協力をお願いします!

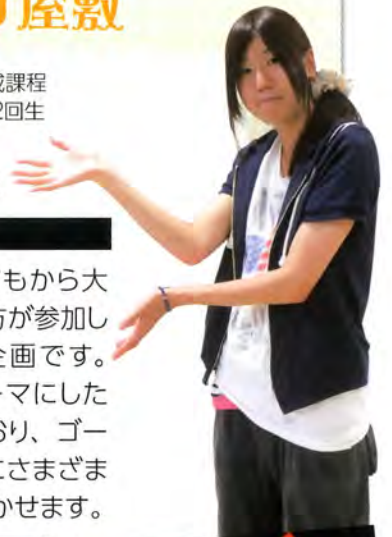


### お化け屋敷

教育学部 学校教育教員養成課程  
教育発達専攻 心理学専修 2回生  
みきみや  
三木 美弥さん  
私立智辯学園高等学校出身

#### 概要

例年、小さな子どもから大学生までたくさんの方が参加してくださる大人気企画です。今年は廃病院をテーマにしたお化け屋敷となっており、ゴールにたどり着くまでにさまざまなお化けが皆様を驚かせます。



輝薨祭恒例のお化け屋敷!皆様に楽しんでもらえる&怖がってもらえるようなお化けがお待ちしております!

### 仮装審査会、仮装行列

輝薨祭の名物とも言えるイベントです。今年新たに行われる学内イベント「仮装行列」も併せて、盛り上げていきましょう!

教育学部 学校教育教員養成課程  
教科教育専攻 社会科教育専修 2回生  
かわい えりか  
河合 恵理佳さん  
兵庫県立神戸甲北高等学校出身

#### 概要

参加団体がそれぞれ考えた仮装に身を包み、工夫を凝らしたパフォーマンスを披露する、毎年恒例のイベントです。また今年は仮装した一団が学内を歩きまわる仮装行列も行い、よりさまざまな人に楽しんでもらいます。



# 留学生 レポート



- ① ロックハイブン大学
- ② セントラルミシガン大学
- ③ 嶺南大学校
- ④ 公州大学校
- ⑤ 光州教育大学校
- ⑥ 西安外国語大学
- ⑦ 華東師範大学
- ⑧ インドネシア教育大学
- ⑨ ハイデルベルク大学
- ⑩ ブカレスト大学
- ⑪ リヨン第三大学

## Interviewee



教育学部 学校教育教員養成課程  
言語・社会コース 4回生  
岡山県立笠岡高等学校出身

はすおか  
**蓮岡 くるみさん**

嶺南大学校 (韓国)  
(留学期間 2014.3 ~ 2014.12)



大学で桜祭りがあり、友だちと花見をしました！嶺南大学校は桜の木がたくさんあってとってもキレイです。



Farewell Partyで留学生と、大学の留学支援の人たちと。

### ✦ 留学をしようと思ったきっかけは。

幼い頃から海外に興味があり、海外で生活しながら文化に触れ、語学を学びたいと思っていました。1回生の冬に海外留学説明会に行き、実際に留学を経験した方々の話を聞いて、最も興味を持っていた韓国への留学を決意しました。

### ✦ 留学する前にどのように語学の勉強をしていましたか。

約2年間、韓国語教室に通って韓国語の勉強をしました。また、奈良教育大学で行われている韓国語の授業も1年間聴講しました。

### ✦ 留学先ではどのように過ごしていますか。

授業は、実用韓国語や韓国の文化に関するものを受講しています。食事は朝昼晩と食堂のミールプランで食べています。バイキング形式で、キムチが必ずあります。休日には友だちと買い物に出かけたり、出前を頼んでパーティーをしたり、スポーツをしたりしています。

### ✦ 留学生活で一番驚いたことは何ですか。

韓国の学生の勉強への熱意に驚きました。嶺南大学校では相対評価で授業成績がつけられ、また就職の際に大学での成績が大きく関わるため、試験や発表に対する学生たちの熱意は凄まじいです。長期休暇に外国語の特別講義を受講したり、休学して留学をしたりする学生もたくさんいます。就職のために熱心に勉強している韓国の学生を見ていると、私も感化されます。

### ✦ 留学中一番うれしかったこと、逆に大変だったことは何ですか。

うれしかったことは、日本のことを大好きだと言ってくれる人たちに会えたことです。日本人である私以上に日本の文化に詳しい人や、日本語を勉強しているので教えてほしいという人がたくさんいて驚きました。

大変だったことは、体調を崩したときに症状を上手く周りに伝えられず、効き目のある薬を得られなかったことです。日本から持ってきた薬ではなかなか治らず、のどが痛いのに食堂の食事はからいものばかりで、つらかったです。

### ✦ 留学体験をどのように生かしていきたいと思えますか。

今後は、留学を考えている人や留学をしている人を支援していきたいです。私自身の留学経験を生かして、アドバイスをしたり後押しをしたりして、できるだけ多くの方が留学を経験して日本にいてだけでは学べないことを学んでほしいと思っています。

### ✦ 在学生、高校生の皆さんに一言。

大学生活とは、自分の選択次第でさまざまな道を広げられるとても大切な期間です。果敢に挑戦し、多くの人に出会ってください。



韓国の友だちとソウル旅行に行きました！朝鮮時代の王宮、キョンボクンでの1枚。



ルームメイトと出前を頼んでパーティー！ベトナム、タイ、オランダの友だちと住んでいます。





嶺南大学校(韓国)

本学の国際交流協定校の一つである嶺南大学校（1999年2月交流協定締結）は、韓国の慶尚北道慶山市に本部を置く、韓国でも有数の規模を誇る私立大学です。学校内だけを回る循環バスがある程広いキャンパスが特徴です。春にはキャンパス全体に桜が咲き、花見も行われます。また、広い芝生がたくさんあり、くつろぎのスペースになっています。

今回は本学から嶺南大学校へ留学している蓮岡くるみさんと本学に留学していたヨ ジュヒさんに話を聞きました。



奈良のFMラジオに出ました

## Interviewee



嶺南大学校(韓国)

ヨ ジュヒさん

日本 / 奈良教育大学  
(留学期間 2013.10 ~ 2014.8)



大阪城に行ったときに

### ✦ 留学をしようと思ったきっかけは。

幼いころから、海外に興味があり、海外に住むことは夢でした。そして、私の友達が留学した時、「留学生活は楽しい思い出を作れるし、世界を見る眼が広がる」と言っていたので、もっと留学に行きたいと思いました。日本、特に奈良でいたいと思ったのは、私の専門が日本語・日本文学だからです。

### ✦ 留学する前にどのくらい日本語を勉強していましたか。

留学する前に嶺南大学校で3年間くらい日本語を勉強していました。その前中学校や高校の時、第二外国語として日本語を習いましたが、平仮名、片仮名と簡単な挨拶や紹介ぐらいができるレベルでした。

### ✦ 奈良教育大学の学生としてどのように過ごしていましたか。

毎月1回「なっきょん's cafe」で日本人と留学生の交流会をしました。また、大学や奈良県のイベントにも参加しました。その中で一番楽しんだのは「ゆりまつり」でゆり姫になったことです。また週末には旅行しました。今、日本で行けなかった地方は沖縄しかありません。また、日本の部活にも参加しました。本当に良い経験になりました。

### ✦ 留学生活で一番驚いたことは何ですか。

日本語を勉強し始め、一番嫌だったのは漢字でした。日本人は漢字が上手でなんでも知っていると思いましたが、実際に日本に来てみたら、日本人も分からない漢字があって、ちょっと安心しました。レポートを書くため、日本の論文を見た時、辞書を探しても知らない単語が出てきて、日本人の友達に聞

いてみたらその人も知らなかったんです。終わらない漢字の勉強で絶望したりしたんですけど、日本人も知らない漢字があると思ったら気楽に勉強ができます。

### ✦ 留学中一番うれしかったことは何ですか。

来たばかりのころ、私の誕生日に皆がサプライズパーティーをしてくれました。私の23回目の誕生日は一番素敵な誕生日だったと思います。

### ✦ 留学体験をどのように生かしていきたいと思いますか。

留学を決めたころは、日本人の友達をいっぱい作って日本語の能力をもっと伸ばしたいと思いましたが、今は少ないかもしれませんが、大切な友達になった人が何人かいます。また、これからも日本の文化について色んな経験をしたいと思っています。

### ✦ 日本の大学生、高校生の皆さんに一言。

私が出会った日本人の友達の中で、留学したいけど行けない人たちがいました。お金の問題や1年遅れて卒業することを怖がっている人が多かったです。私もその問題に同感しますが、

本当に行きたい気持ちがあったらその問題は乗り越えられると思います。私は留学がしくて、1年ぐらい大学を休学し、会社で働き、お金を稼いできました。その経験は私の卒業が遅くなくても、いい経験になったと思います。皆さんも海外で色んな事を体験してみてください。



歩いて和歌山県まで行った時



キャンパスで輝く学生を紹介

# キラリ 奈教生



文部科学省 国際統括官の加藤重治氏と国連大学 ウ・タント国際会議場にて

## Profile\* プロフィール

教育学部 総合教育課程 科学情報コース 4回生

後藤田 洋介さん 大阪市立南高等学校出身

教育学部 総合教育課程 文化財・書道芸術コース 4回生

横井 まどかさん 私立上田西高等学校出身

教育学部 学校教育教員養成課程

教科教育専攻 英語教育専修 2回生

北側 瑞歩さん 私立奈良学園高等学校出身

教育学部 学校教育教員養成課程

教科教育専攻 数学教育専修 2回生

堀口 大地さん 私立関西大学高等学校出身

教育学部 学校教育教員養成課程

教科教育専攻 英語教育専修 1回生

平田 申矢乃さん 神戸市立東宮南高等学校出身

## ESD のできる教員になるために —ユネスコクラブの取り組み—

8月21日～22日に東京の国連大学にて開催された「ESDの10年・地球市民会議2014」において、ユネスコクラブの学生が発表を行いました。ESDに取り組む多くの関係者が集まる場で発表する機会が与えられたことは、これまでのユネスコクラブの積極的な活動の賜物であり、ESDに関する取り組みを積極的に進める本学にとって、非常に光栄なことです。

今回は、実際に発表を行った5名の学生に話を聞きました。

### ESD 子どもキャンプで学生自身も成長

今回の会議では、8月14日～15日に実施した「第3回ESD子どもキャンプ」を中心に、ユネスコクラブの活動報告が行われました。大きな会場でもとても緊張したということですが、コント形式で発表するなど工夫を凝らし、会場の聴衆を引きつけました。

今回のキャンプでは、奈良町の古い写真をもとに現在の風景を探し出すフィールドワークを活動の中心とし、昔から変わっていないと思われがちな奈良町も実は変化しているということを実感し、子どもたちに自分たちは未来を創ることができる当事者の一人なんだという意識を持ってもらうことが目的の一つでした。児童生徒、学生、教員らの総勢106名が参加する大規模なキャンプですが、現職教員らと相談しながら企画・運営を学生が行うことで、学校現場で求められる子ども理解や指導方法、実行力を高めたり、現職教員と交流したりするまたとない機会となり、子どもたちと共に学生自身も成長することができます。

### ユネスコクラブとは

ユネスコクラブの部員は現在60名。本学の課外活動団体で最大の規模です。①「ESDのできる教員になる」、②「ESDの行動化を楽しく追求する」という2点を目的に活動しています。①については、周りとESDに取り組み、ESDを実践できる教員になる、またそれ以外の職業でも持続可能な社会の担い手として活躍できるようになる、②については、ESDに必要な、持続可能な社会を作っていくための行動を子ども達や周りに広げていくための方法を考えていくという意味があるそうです。

ユネスコクラブでは、子どもキャンプ以外にも、子どもキャンプに向けての研修キャンプやESDの行動化や理論を学ぶための勉強会、地域の素材を知るためのフィールドワーク「私の好きな奈良」、地域のユネスコスクールの支援、他大学のユネスコクラブとの交流会などを行い、ESDについて見聞を広めています。

### 活動から得たもの

ユネスコクラブや子どもキャンプなどを通じて、どのようなものを得たのでしょうか。

後藤田さん：ESDに関する取り組みを行っている人とつながりを持つことができ、また、子どもキャンプの企画・運営を通して、地域のこともよく知ることができました。

横井さん：たくさんの仲間と出会い、地域や学校のあり方に対する考え方が大きく変わりました。また地域の先生方や子どもたちとつながりを持つことができました。

北側さん：同年代の学生だけでなく、小中学生や現役の教員、地域の方などさまざまな年代の方と関わり、さまざまな方と話したり活動したりする機会を得られました。

堀口さん：たくさんの話し合いに参加することで、他人の意見を聞いているいろいろな考え方ができるようになりました。

平田さん：何かを変えたいなら自力で行動しなくてはならないことを知り、仲間と協力することの大切さ、ありがたさを実感しました。また、ESDの実現には、一人一人の意識や行動が必要だが一人の力だけではいけないということを実感しました。

### 世界にもつながりを

これからの目標について後藤田さんは、「ユネスコクラブやESDに関係する活動を通じて、日本全国にとどまらず、世界にもつながりを作っていきたいと思っています。つながりをつくることで、自分たち以外の考え方の理解が深まったり、協力してできることも増えていくと思います。また、自分達が教員になったときに、そのつながりを生かしていければいいと思います。」と話してくれました。より広い視野を持って活動し、教員になった時に役立つつながりや引き出しをこれからも増やしていくよう期待しています。

\*P21 キャンパスニュース「ESD 子どもキャンプを実施」に関連記事を掲載しています。



# ブカツ魂!

奈良教育大学には、文化会所属10団体、体育会所属26団体のクラブがあり、多くの学生が仲間とともに活動しています。ここでは、そんな課外活動を紹介します。今回は、女子バスケットボール部です。

## 文化会

- ギターマンドリンクラブ
- ウインドアンサンブル
- 軽音楽部
- 茶道部
- 合唱団コールグレイス
- 劇団キラキラ座
- (障がい者問題研究会) すぎのこ
- 書芸部
- 地歌争曲部
- 現代視覚文化研究会

## 体育会

- 合気道部
- 弓道部
- 剣道部
- 男子硬式テニス部
- 女子硬式テニス部
- 硬式野球部
- 男子サッカー部
- 女子サッカー部
- 準硬式野球部
- 少林寺拳法部
- 水泳部
- 創作ダンス部
- 男女ソフトテニス部
- 男子ソフトボール部
- 卓球部
- 男子バスケットボール部
- 女子バスケットボール部
- バドミントン部
- 男子バレーボール部
- 女子バレーボール部
- 男子ハンドボール部
- 女子ハンドボール部
- ラグビー部
- ワンダーフォーゲル部
- 陸上競技部
- 柔道部

[学生団体・クラブ紹介] [http://www.nara-edu.ac.jp/campus\\_life/extracurricular/extracurricular\\_education/](http://www.nara-edu.ac.jp/campus_life/extracurricular/extracurricular_education/)

pick up

## 女子バスケットボール部 部員数18名

1年生4名、2年生6名、3年生5名、4年生3名の計18名が所属しています。火曜日、木曜日、土曜日、日曜日の週3~4回練習しています。4月に全関西女子学生選手権大会、5月に西日本学生選手権大会、6月に京都教育大学定期戦、8月に近畿地区国立大学体育大会と関西女子学生リーグ戦、11月に関西女子学生秋季トーナメント戦、そして3月に全国教育系国立大学選手権大会に出場しています。

### 『1.2.3ファイト!』

教育学部 学校教育教員養成課程 教科教育  
専攻 理科教育専修 2年生  
大阪府立池田高等学校出身

プレイヤー

おくむら みお  
奥村 弥緒 さん

私たち女子バスケットボール部は現在1~3年生のプレイヤー14人、マネージャー1人で活動しています。今までは部員数が少なく、厳しい時もありましたが、ここ数年で部員数が増え、賑やかです。小学生の時からバスケットをしている者から大学から始めた者までいて、みんなバスケットが大好きで、楽しくあたたかいチームです。週3~4回の限られた練習の中で、1回1回を大切に、一生懸命練習しています。

指導者がいないため、自分たちで練習メニューを組み、毎回練習の後にはミーティングを行って、より良い練習作り、スキルアップを目指して、日々切磋琢磨して

います。指導者がいないことで大変なこともあります。自分たちで協力してチームを作り上げることが、とても貴重であり、学年を越えて仲が良いことの秘訣でもあります。

関西女子学生バスケットボール連盟に所属し、全関西女子学生選手権大会、西日本学生選手権大会、近畿地区国立大学体育大会、関西女子学生リーグ戦、関西女子学生秋季トーナメント戦、全国教育系国立大学選手権大会に出場しています。中でも一番力を注いでいるのは、8月中旬から始まるリーグ戦で、3部に昇格することを部の目標としています。3月に行われる全国教育系国立大学選手権大会では、約5日間にわたり毎日試合をこなしますが、肉体的にも精神的にも非常にハードですが、スキルアップはもちろん、仲間と過ごす時間はチームの結束もさらに高めてくれます。



今年度リーグ戦試合前の様子



今年度リーグ戦最終戦後の様子



昨年度全教の様子

## 活躍する奈教生

### 文化系

- ◆ 第19回全日本高校・大学生書道展 団体 大学の部  
優秀校3位

木村 佳史さん(教育学部3年生)

- ◆ 第19回全日本高校・大学生書道展  
書道展大賞(かな)

栗原 綾乃さん(大学院1年生)

- ◆ 第19回全日本高校・大学生書道展  
書道展大賞(漢字)



### 体育系

#### 準硬式野球部

- ◆ 第52回近畿地区国立大学体育大会 優勝

#### 弓道部(女子)

- ◆ 第52回近畿地区国立大学体育大会 準優勝

#### 硬式野球部

- ◆ 第52回近畿地区国立大学体育大会 第3位

#### 女子ハンドボール部

- ◆ 第52回近畿地区国立大学体育大会 第3位

加後 美咲さん(教育学部1年生)

- ◆ 2014日本学生トライアスロン選手権観音寺大会 女子選手権  
第3位



6月4日



田植えに挑戦する留学生ら

## 国際交流イベント「奈良実習園で田植えを体験しよう!」を開催

留学生と日本人学生が交流しながら、日本の文化に触れる国際交流イベントの一環として開催しました。

まず、箕作和彦准教授による日本の米作りにつ

いてのミニ講義があり、米作りについての知識を少し吸収してから実際に田植えに挑みました。裸足で田んぼに入っただけの作業に、参加者からは歓声が上がっていました。

6月5日



剣道について紹介する学生

## ケンタッキー州大学連合と国際交流会を実施

理数教育研究センターでは、理数科教育プログラムに参加する学生・院生らが中心となり、アメリカ・ケンタッキー州大学連合の教員、学生らを招いて交流しました。

当日は、書道、武道、折り紙、おもちゃ等の

代表的な日本の伝統・文化に加え、近年海外から脚光を浴びている日本のアニメ文化も紹介し、日本の科学技術の背景にある匠や技について語り合う有意義な交流会となりました。

6月25日



心肺蘇生の方法を体験する参加者

## 学生と教職員対象に応急手当講習を実施

本学で実施される教員免許状更新講習の運営補助にあたる学生や関係する教職員に、いざというときの対処法を身に付けてもらおうと、応急手当に関する講習会を実施しました。

近隣の奈良市中央消防署の救急救命士らを講師に迎え、心肺蘇生の方法やAEDの使い方について、実際に人形やデモ機を使って体験しながら学びました。

7月2日



緊張をほぐす呼吸法を実践する参加者

## 教員採用試験出陣式を開催

教員採用試験に挑む学生を激励すると共に、試験当日に向けての最終的な注意事項を共有するために、出陣式を開催しました。

昨年度の教員採用試験に合格し、今年の4月から教員として勤務している卒業生からのビデオレターによるアドバイスや、試験官として採

用試験に携わった経験を持つキャリアアドバイザーによる採用側から見た注意事項、卓球日本代表選手などのメンタルサポートを担当する岡澤祥訓教授による緊張を解きほぐす呼吸法などがレクチャーされ、熱心に聞き入っていました。

7月8日



会場の放射線量を測定する長友学長

## 附属幼稚園保護者を対象に学長が講演

大学構内に位置しているという附属幼稚園の特性を生かし、保護者にも教養の幅を広げる機会を持ってもらおうと、「附属幼稚園保護者のための大学講座」を開催し、文化財科学・物理学が専門の長友恒人学長が「3・11大震災と福島第一原発事故から学ぶこと」と題して講演を

行いました。

チェルノブイリ事故後に現地調査を行ったことなど実体験に基づく話や、実際に放射線量計を使った会場の放射線量測定などを交えながらの話に、参加者は熱心に聞き入っていました。

8月14日、15日



キャンプの最後に集合写真に収まる参加者

## ESD子どもキャンプを実施

本学と、奈良市近郊のユネスコスクールに加盟している学校園で作る奈良 ASP ネットワークは、ユネスコスクールに所属する児童生徒に ESD (持続可能な社会の担い手を育てる教育) を体験してもらうために、1泊2日のキャンプを実施しま

した。この企画・運営はユネスコクラブを中心とする本学の学生が行い、企画・運営を通して、学校現場で求められる子ども理解や指導方法、実行力を高め、また活動支援をしていただく現職教員と交流を深めました。



## 附属小学校



### 縦割り小集団の呼び名が「さくらグループ」と決定

新しい学年が始まると、全校の先頭集団になる6年生とともに児童委員会が今年度の児童会活動のめあてを考へて全校に提案します。あわせて、異学年とのつながりを深めることを大事にした1～6年の縦割り小集団の呼び名を全校から募集しました。集まったたくさんの呼び名から児童委員会が3つを選

び、全校集会で発表した結果、2年生が考へた「さくらグループ」が全校の賛成で選ばれました。これには、中心になる6年生を真ん中にすえて、その周りに5枚の花びら(学年)が囲むという意味が込められています。後日、さくらグループで遊ぶ会をもち、つながりを深めました。

## 附属幼稚園 5月13日



### 奈良公園への親子遠足

新年度が始まり、少しずつ幼稚園や新しい先生、友達に慣れてきた頃に春の親子遠足を実施しました。年少・年中児は、大好きなおうちの人と一緒に奈良公園の飛火野に出かけ自然の中で過ごす心地よさを味わう遠足です。飛火野の奥まで足を伸ばして、親子で一緒に、音楽に合わせて体を動かしたり、動物になって遊ぶゲームをしたりしながら、手をつ

ないだり、おんぶしてもらったり、ギュッと抱きしめてもらったりする機会をつくり、親子のふれ合いの楽しさを十分感じられるようにしました。親子でお弁当を食べた後には、鹿園の方まで山あり川ありの小さな探検に行きオリエンテーリングを楽しみました。ここでの楽しい経験が、友達と過ごす楽しい園生活へとつながっていきました。

## 附属中学校 8月22日～26日



### 韓国公州大学校附設中学校との交流事業

附属中学校では、平成23年に韓国公州大学校附設中学校との間に交流協定を結び、平成24年から教員と生徒が相互に訪問する事業を行っています。公州は百済の都が置かれていた所で、斑鳩の藤ノ木古墳との関連を思わせる宋山里古墳群など史跡が多く残る都市です。

今年は8月22日から26日までの日程で教員3名、生徒6名が公州を訪問しました。現地ではホームス

テイをしたり、附設中学校での歓迎会やクラブ体験、給食体験などをさせていただきました。事前に韓国語や英会話、日韓関係史や韓国料理体験などの学習を行ったこともあり、訪韓した生徒たちは国境や言葉の壁を易々と乗り越えて、附設中の生徒たちと打ち解けていました。来年1月中旬には、公州の先生方と生徒を附属中学校に迎える予定です。

# 奈良に息づく仲間たち



〔自然環境教育センター〕  
<http://www.nara-edu.ac.jp/ECNE/>

自然環境教育センター  
准教授 辻野 亮



## ビオトープのアゼスゲ

スゲという植物を知っているだろうか。シュルツとした長い葉っぱを伸ばす単子葉植物で山野や草地などさまざまな場所に生育しており、日本列島にはスゲの仲間が252種も生育している。その風貌はどの種もよく似通っているために、「スゲ」を見つけてもなんとというスゲなのかを見分けるのはとても難しい。スゲの名前を知るための重要なチェックポイントは花と果実である。

しかしいつでも花が咲いているわけではない。そこで次

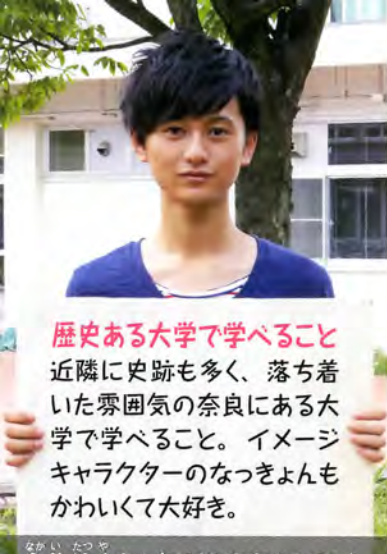


◀アゼスゲはいったいどれでしょう

に重要な手掛かりになるのはどこに生えていたかである。植物には適した場所があり、どこでも好き勝手に生育しているわけではない。スゲの仲間は多様なだけあって、乾いた草地が好きなスゲがいれば、崖を好んで生育するスゲもあり、中には湿った場所が好きなスゲもある。たとえばアゼスゲはその名の通り田んぼの畦のように明るい湿った環境を好むスゲである。

奈良教育大学を正門から入って正面にある緑地はビオトープと呼ばれており、明るい草地と小川が維持されている。よく探すとアゼスゲが生育しているのがわかる。人に向き不向きがあるようにスゲにも適した生き様がある。たまにシカが植物を刈りこんではいるが、それにもめげずにアゼスゲは自分に適した生き様を探し出してビオトープの水辺に定着しているのだろう。



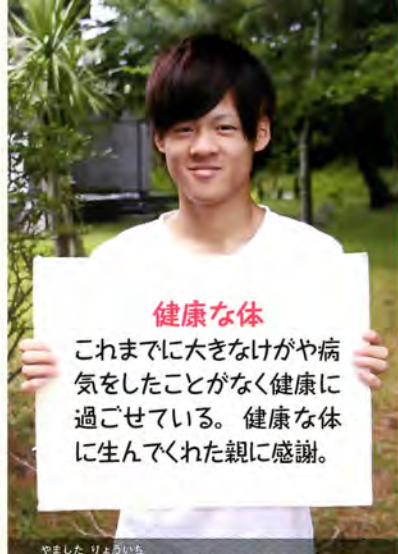


**歴史ある大学で学べること**  
近隣に史跡も多く、落ち着いた雰囲気の奈良にある大学で学べること。イメージキャラクターのなつきよんもかわいくて大好き。

なかい たつや  
永井 達也さん(理科教育専修2回生)

# 奈教生に

聞きました!  
vol.12



**健康な体**  
これまでに大きなけがや病気をしたことがなく健康に過ごせている。健康な体に生んでくれた親に感謝。

やました りょういち  
山下 亮一さん(美術教育専修1回生)

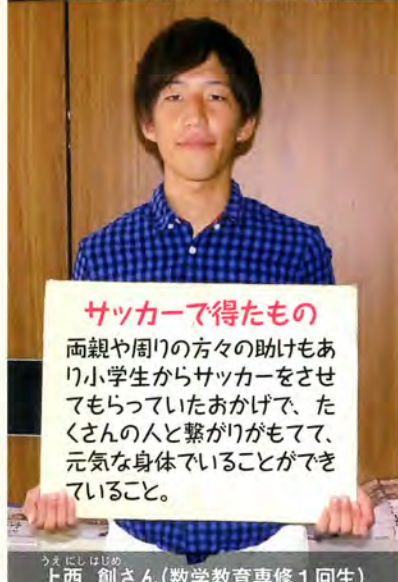


**学生生活を通じて得たたくさんの友人**  
大学祭実行委員会の活動を通じて得た多くの友人や、卒業後も関わってくれる先輩など、周りの人に恵まれた。

こつか まさよ  
小塚 益代さん(家庭科教育専修2回生)

## 「自慢できること」

他人に何かを自慢できるのは素晴らしいことですが、なかなか難しいことです。今回協力してくれた皆さんも、悩んだ人が多かったようです。改めて自分と向き合う良い機会になったでしょうか。



**サッカーで得たもの**  
両親や周りの方々の助けもあり小学生からサッカーをさせてもらっていたおかげで、たくさんの人と繋がりがもてて、元気な身体でいることができていること。

うえの はじめ  
上西 創さん(数学教育専修1回生)



**奈良が大好き**  
福井出身なので、学生生活を送る中で知り合った友人(大学の友人、バイト先の友人)を通じて、奈良の良さを実感している。

まきの しずこ  
牧野 祥子さん(家庭科教育専修2回生)



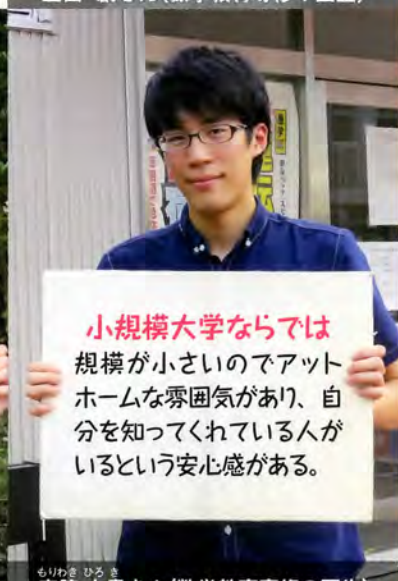
**自分で作ったプログラムで体操指導**  
幼稚園児や小学生に体操を教えるボランティアをしている。3回生になって自分でプログラムを作るようになり、自信がついてより熱心に取り組むようになった。

ありい ゆか  
有井 佑華さん(教育学専修3回生)



**ピアノを続けてこられたこと**  
1つの曲が弾けるようになると、曲の雰囲気を表現し、より良いものを創るために何度も弾いて練習している。4歳から続けている好きなことでもあり、頑張りたい。

なかわ まさこ  
余川 槇菊さん(音楽教育専修2回生)



**小規模大学ならではの**  
規模が小さいのでアットホームな雰囲気があり、自分を知ってくれている人がいるという安心感がある。

もりおか ひろあき  
森脇 大貴さん(数学教育専修3回生)



弊誌に関するご意見・ご感想をお寄せください。  
QRコード対応の携帯電話にてアンケートにご回答いただけます。  
皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。



なつきよん's CLUB

広報誌づくりなど、広報活動をお手伝いいただける学生広報スタッフを募集しています。  
興味のある方は総務企画課秘書・広報担当まで、お気軽にお問い合わせください。



国立大学法人  
奈良教育大学

奈良教育大学 広報誌「ならやま」

第47号 平成26年10月31日 編集/広報委員会 発行/国立大学法人奈良教育大学

3月・7月・10月各下旬発行

〒630-8528 奈良市高畑町 TEL.0742-27-9104 FAX.0742-27-9141 Email:kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp

※広報誌「ならやま」は大学ホームページからご覧いただけます。

<http://www.nara-edu.ac.jp/>